



株式会社フォーカスシステムズ

2023年3月期第2四半期決算説明会

2022年11月17日

イベント概要

[企業名]	株式会社フォーカスシステムズ
[企業 ID]	4662
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期
[日程]	2022 年 11 月 17 日
[ページ数]	14
[時間]	16:00 - 16:17 (合計 : 17 分、登壇 : 17 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 森 啓一 (以下、森)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

売上高・各利益ともに、第2四半期累計期間における過去最高を記録

(単位：百万円)

	FY2022				FY2023		前年同四半期比	
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	増減額	増減率
売上高	6,031	12,489	19,255	26,278	6,943	14,238	1,749	14.0%
営業利益	302	821	1,367	1,640	489	1,103	282	34.4%
経常利益	306	770	1,322	1,600	523	1,165	394	51.3%
四半期(当期) 純利益	204	522	889	1,066	354	797	275	52.8%

森：株式会社フォーカスシステムズ、代表取締役社長、森啓一でございます。2023年3月期第2四半期の決算説明会を行います。

まず、第2四半期の決算説明から行わせていただきます。売上高、各利益ともに、第2四半期累計期間における過去最高を記録いたしました。

売上高 142億3,800万円、営業利益 11億300万円、経常利益 11億6,500万円、純利益 7億9,700万円という結果になりました。

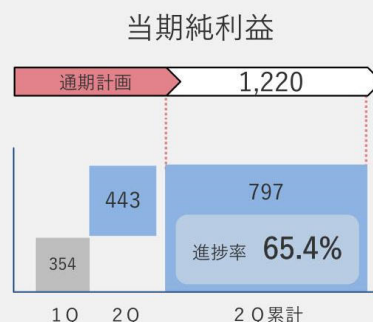
前年同期に比べまして、それぞれ増減率といたしましては、売上高 14.0%、営業利益 34.4%、経常利益 51.3%、純利益 52.8%という、いずれも増収増益という形で、非常に良い決算をすることができました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

通期計画に対し、全指標50%を超える進捗

- 第2四半期は既存顧客との取引拡大・新規顧客の開拓が進み、進捗は好調だった。
- 開発フェーズの大型案件が、例年と比較し上期に偏重した。



© 2022 Focus Systems Corporation

5

いずれも、通期の計画に対して全指標 50%を超える進捗率となっております。売上高に関しては 51.8%の進捗率、営業利益にしましては 61.3%、経常利益にしましては 64%、そして純利益に関しては 65.4%の進捗率となっております。

第2四半期は、既存顧客との取引拡大、新規顧客の開拓が進んで、非常に進捗率としては好調な結果となりました。これまで、会社としては2次請けという立場が主流でしたが、当社も今では上流から下流まで、そして保守運用まで担える会社となり、新規の1次請けの仕事も積極的に獲得、受注し、新規既存業務とも非常に順調に拡大しております。

特に今回の上期にしましては、開発フェーズの大型案件が例年と比較して非常に上期に集中いたしました。これまで当社は、どちらかというと下期に売上・利益とも偏重する、積み重なるという傾向がありましたけれども、逆に今期に関しては、下期よりも上期に、売上・利益とも集中しております。

これは、これからお話しする、特に公共の案件において、大型案件の開発フェーズが第2クォーターで一通りの収束を迎えまして、第3クォーター、第4クォーターにしましては、そちらが維持、保守フェーズに入るという話を聞いております。ですので、上期ほど下期に関しては売上高、

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

利益高ともに伸びないであろうと、当初の計画どおりの数値をキープするのではないかという話を聞いております。

それを踏まえて、各セグメントの状況を説明させていただきます。

セグメント別概況 ①

Focus Systems

公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造、システム稼働後の運用・保守

好調な既存案件がセグメント全体をけん引、新規案件も増加し好調に推移



- 前期後半から続く、公共医療案件が売上・利益を大きく押し上げた。
- 大規模な社会保険案件等、安定的な収益基盤の拡大・強化が業績に寄与した。

© 2022 Focus Systems Corporation

6

まず、公共関連です。

公共関連は、前期の後半、下期から続く公共医療案件が、売上・利益ともども、会社として大きく寄与いたしました。売上高に関しましては 14.0%、セグメント利益に関しては 23.8%で、既存案件が、このセグメント全体の売上高・利益高ともに牽引するという形になっております。

また、公共関連の次の仕事という意味で、このアジャイル開発案件という新規案件も参入をいたしております。こちらは、これまでのウォーターフォールの開発から、新しい形でのアジャイル案件という形で新規に参入して、こちらを積極的に伸ばしていこうということの取り組みが功を奏して、この新規案件に関しても、売上高・利益高ともに伸びるという結果に寄与しております。

サポート

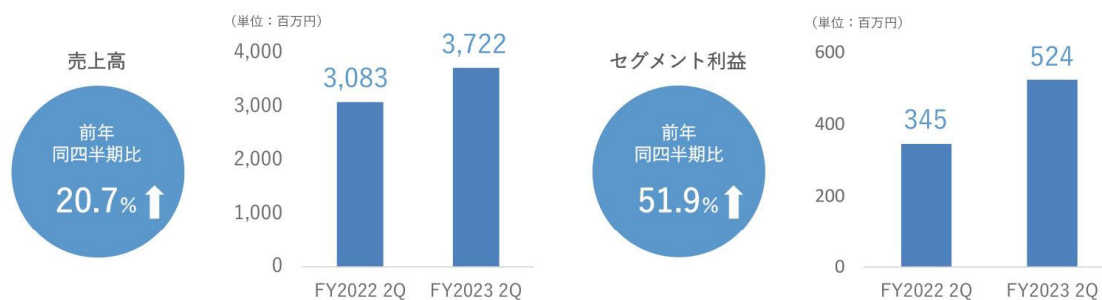
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

intra-martやBiz J、SAP等、ERP事業の一次請け案件を積極的に獲得し、大幅に伸長



- 民間に留まらず、自治体等の一次請け案件を積極的に獲得した。
- プロジェクトにおける要員管理の最適化・単価アップが奏功し、利益が増加した。

続いて、エンタープライズです。

エンタープライズは、SAP、ERP 業界の中では歴史が長くて、世界中で数多くの実績がある製品であります。こちら、弊社といたしましては、一つの形にしようということで、2000年（正しくは2020年）12月に参入を開始いたしました。

昨年度は、こちらはなかなか案件が決まらず、受注できずに、非常に苦戦したのですが、今年度に関しては想定よりも早く、上期で数件の大型案件が受注できたということで、このSAP案件に関しても、このセグメントに関しては、大きな売上高・利益の増加につながる形となりました。

既存のintra-mart、そしてBiz Jについては、両方とも通常どおりです。非常に順調に推移しておりまして、今期も両メーカーから実績を評価されて、表彰を受けております。

さらにここは、これまで民間が主流でしたが、そこから自治体等の公共施設、団体等も、1次請け案件ということで受注が進んでおりまして、こちらも伸びる一つの要因となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

また、この本部に関しましては、請負を主流にしまして、請負を取ることによって、案件と案件のつなぎ目に関して、空き要因を徹底的に減らす、そして内容次第で掛け持ちをするといった、人員の要員の確保も最適化が進んでおりまして、そういった意味では、非常にこの部署に関しては順調に推移しております。

ただ、こちらは、今後の中期、長期を目指しまして、新たな、ちょっと広めの場所に移動するというので、そちらの投資が各下期について発生しますので、上期ほどの売上高・利益に関しては見込めないということを聞いております。

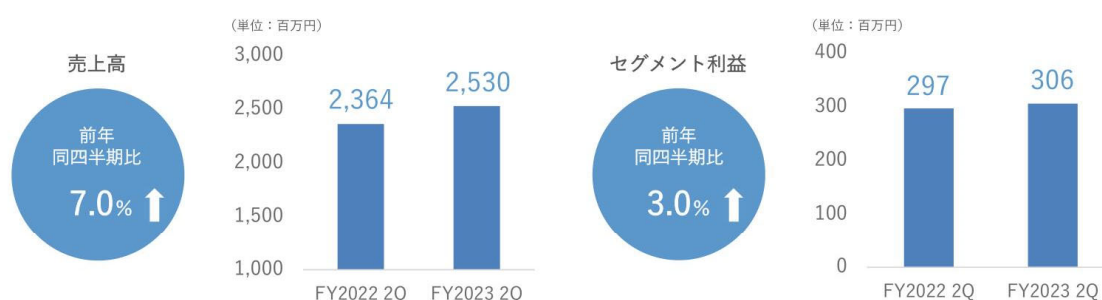
セグメント別概況 ③

Focus Systems

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

戦略的に進めてきたローコード開発案件の獲得で、成長基調を維持



- 大規模案件の進捗遅れによる影響を受け、コストが増加した。
- ローコード開発案件の好調に加え、広範な技術エリアで構築したポートフォリオでカバーした。

© 2022 Focus Systems Corporation

8

次が広域ソリューションです。

こちらは、他のセグメントに比べると、売上高・利益とも微増となっております。理由の一つとしては、大規模案件の進捗遅れがありまして、そちらが影響を受けて、上期に関しましてはコストが増加したということで、微増という形になっております。

また、この部署に関しましては、ローコード開発という、新たな開発基盤に参入いたしまして、そちらも徐々に引き合いがあると。そしてまた、これからこのローコード開発が主流になってきたときに、そちらを確実におさえられるようにということで、教育研修も含めて対応していますので、

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

そちらも徐々に順調に受注できているということで、微増ではありますが、増収増益で着地することができました。

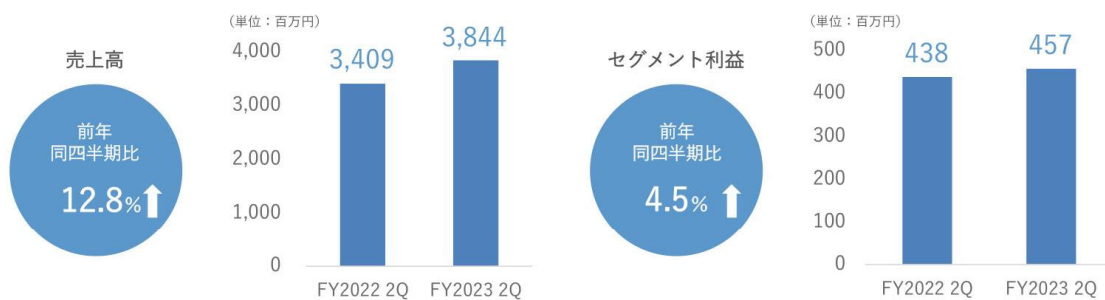
セグメント別概況 ④

Focus Systems

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム構築、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

システム開発、インフラ設計・構築が共に拡大し、セグメント全体が好調に推移



- 日本IBM(株)と共同で進める公共の大規模開発案件が順調に拡大し、売上に貢献した。
(セキュアな開発環境を構築するコストが増加)
- インフラ設計・構築においても前期に続き堅調に推移した。

© 2022 Focus Systems Corporation

9

そして最後が、イノベーションです。

こちらはシステム開発、インフラ設計・構築がともに拡大して、セグメント全体が好調に推移しております。昨年度、日本 IBM さんが分社化して、Kyndryl さんという会社ことができました。そして当初、この分社化した影響によって、弊社の受注に大きな影響を与えるかもしれない、もしかすると、分社化によって売上とか発注によっては減るかもしれないということが危惧されましたが、実際にふたを開けてみると、結果的には IBM さんの案件、そして Kyndryl さんの案件もマイナスになることはなく、両方ともプラスになったということで順調に推移しています。

また、これまでは日本 IBM さんから直で仕事をいただくという形でしたが、昨年度末から、他の、IBM さんと一緒になって落札した大規模案件も進んで、非常に信頼を得ているという意味では、こちらの部署も今のところ順調に推移しているということが言えると思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

(単位：百万円)

	前事業年度	当第2四半期末	
(資産の部)			
流動資産	10,869	11,468	前事業年度末と比較し3,785百万円減少 (主な増加理由) ・現金及び預金の増加 906百万円 ・仕掛品の増加 20百万円 (主な減少理由) ・売掛金及び契約資産の減少 △301百万円 ・投資有価証券の減少 △4,601百万円
固定資産	12,503	8,119	
有形固定資産	3,510	3,516	
無形固定資産	155	163	
投資その他の資産	8,836	4,439	
資産合計	23,372	19,587	
(負債の部)			
流動負債	5,277	5,559	前事業年度末と比較し1,071百万円減少 (主な増加理由) ・短期借入金金の増加 320百万円 ・賞与引当金の増加 216百万円 (主な減少理由) ・繰延税金負債の減少 △1,408百万円
固定負債	3,330	1,976	
負債合計	8,608	7,536	
(純資産の部)			
株主資本	9,869	10,349	前事業年度末と比較し3,785百万円減少 (主な減少理由) ・その他有価証券評価差額金の減少 △3,193百万円
資本金	2,905	2,905	
資本剰余金	2,158	2,167	
利益剰余金	5,156	5,622	
自己株式	△350	△346	
評価・換算差額等	4,894	1,701	
純資産合計	14,764	12,051	
負債純資産合計	23,372	19,587	

続いて、貸借対照表です。

貸借対照表に関しては、特に前年度末と大きな変化があるとすると、これはもう投資有価証券、投資その他の資産がほぼ半分の金額になっていますけれども、これは当社が保有しているFRONTEOの株価の時価総額によるものです。

FRONTEOの株価が、昨年度の事業年度末では2,000円ちょっとありましたが、今回の9月末では770円弱で、それだけで含み益が約46億円減少しております。その影響がほとんどを占めていまして、それによって昨年度の3月末と比べると資産が減っているという状況になっております。

このFRONTEOの株の取り扱いに関しても、投資家の皆さん、そして株主の皆さんからもいくつか質問を受けることがあります。この株を売って、それを何らかの投資に回すというのも、会社としては戦略の一つとして捉えております。それよりも、むしろFRONTEOとAIを使って、AIの得意なFRONTEOと一緒に、何か新しい事業を生み出せないのかなということを主流に、今は検討しております。そちらもこの下期、そして来期にかけて、何らかの形で協業できるような仕組みを会社としてはつくり上げていきたいなということも視野に入れております。

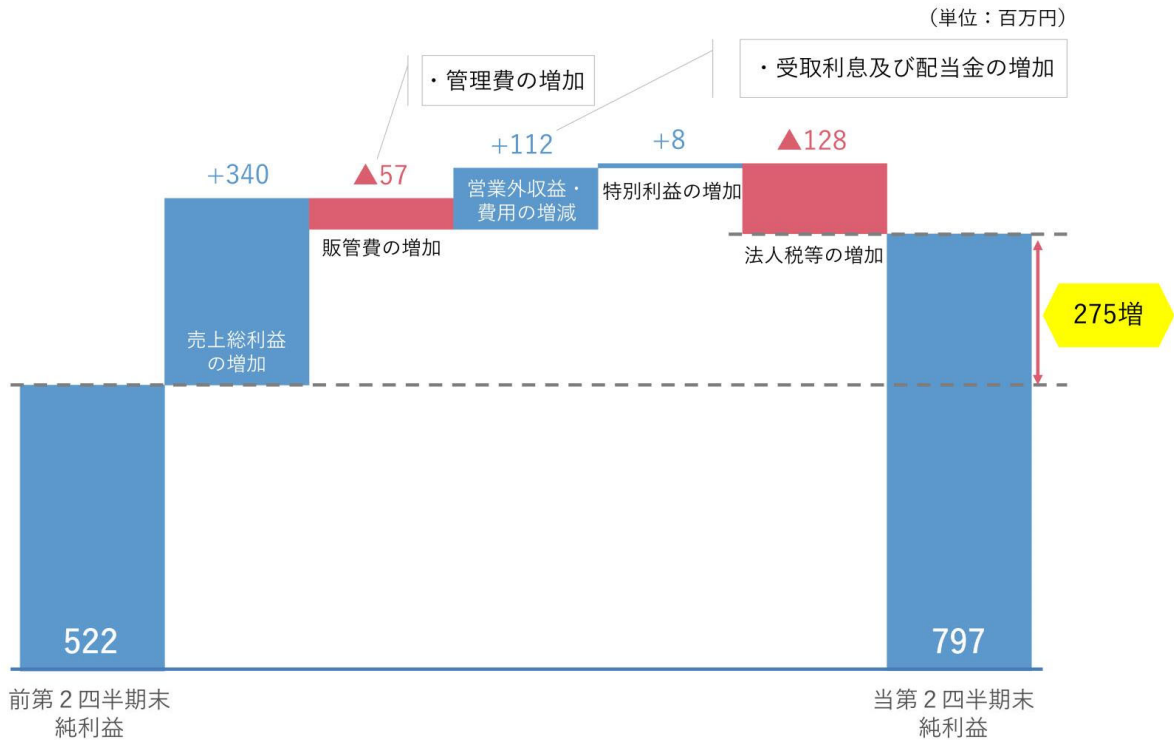
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ですので、今いま、この FRONTEO の株を売って資金化しようかということは、特に会社としては今のところ考えておりませんで、今後の市場の動向にもよりますけれども、今の段階では共に何かしら一緒に協業する方向で捉えているという認識でいます。

純利益の増減分析

Focus Systems



© 2022 Focus Systems Corporation

11

続いて、純利益の増減分析です。

こちらは決算から、前期の第2四半期と当期の第2四半期を比べたときには、2億7,500万円増えています。そして、これはほとんどが売上総利益の増加ですけれども、その他に、受取利息、配当金を、当社が保有している会社さんが配当をしてくれたという影響で増えたりとか、また一方で、販管費が増加しているのは、社内システムの構築によって、クラウド化、セキュリティ対策を施すわけですけれども、そちらがどうしても海外の製品を使うということで、昨今の円安の影響を受けて、そちらの影響で販管費にそちらが加味しているということで増加している状況になっています。

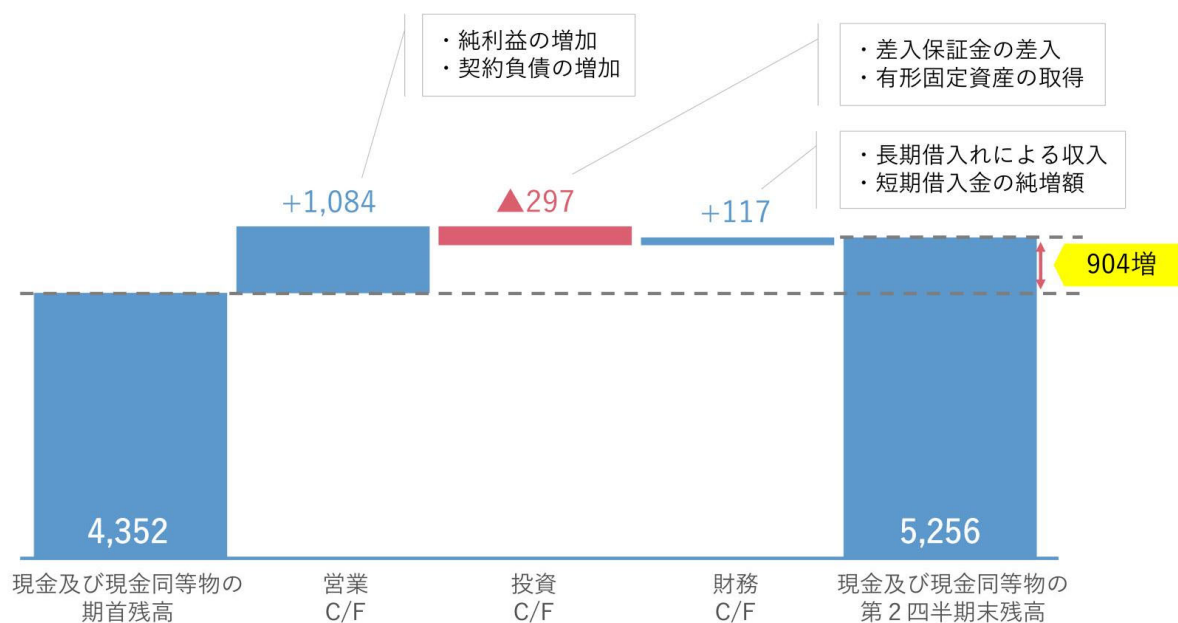
ただ、こちらは、ほぼほぼ通常の売上高、そして利益の増加によって純利益が増加しているという形が見えると思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

(単位：百万円)



また、キャッシュ・フローも非常に順調に推移していきまして、純利益の増加、売上債権の増加で、通常の業務による営業キャッシュ・フローは順調に増えていますし、そして投資も新たな事務所を借りると、そしてまた固定資産を取得するという形で、こちらの投資もしております。その影響もあって、全体のキャッシュとしては9億円ほど増えている状況となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- 当期の上期偏重や一部オフィス移転等の予定を鑑み、業績予想は据置き。
- 当期は中間配当を実施し、1株当たりの年間配当金は「30.00円」となる見込み。

	FY2022 実績 (百万円)	FY2023 予想 (百万円)	前期比増減率 (%)
売上高	26,278	27,500	4.6
営業利益	1,640	1,800	9.7
経常利益	1,600	1,820	13.7
当期純利益	1,066	1,220	14.4

	FY2022 実績	FY2023 予想
1株当たり当期純利益 (円)	70.76	80.86
1株当たり配当金 (円)	27.00 (内訳) 中間配当 5.00 普通配当 20.00 記念配当 2.00	30.00 (内訳) 中間配当 5.00 期末配当 25.00
配当性向 (%)	38.2	37.1

続いて、今年度末の会社の状況です。

上期の数字を受けて、非常に会社は順調なので、上方修正はしないのですかという話もありますが、今いまの段階では、そのまま予想は据え置きとさせていただいております。

売上高は 275 億円、営業利益 18 億円、経常利益 18 億 2,000 万円、そして当期純利益 12 億 2,000 万円という数字ですけれども、こちらはクリアするのは当然という意味合いで、この上に、さらに積み上げられるように、会社全体として、より良い決算をしていきたいと思っております。

この後、第 3 クォーター、そして、それを受けて、期末の数字が分かり次第、もし上方修正等、可能な場合は、速やかに発表させていただきたいと思っております。

また配当に関しましても、今回 30 円という形で配当を予想させていただいております。ただ、配当性向につきましては、利益の計画の増加もありまして、38.2%が 37.1%で、配当性向が下がっているのではないかと見られるかもしれませんが、発表はしておりませんが、内々では 30%から 40%ぐらいの間で毎年配当をしていこうという形でありますので、もしこの後、利益が順調に伸びていくということであれば、またこの配当の数字も会社として見直していきたいなということを考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

いずれにしましても、この第2クォーターの数字は、会社としては非常に順調な決算をすることができました。社員も一丸となって、会社をより良くしようと取り組んでおります。

ただ一方で、一步海外に目を向けると、円安の影響もあったりとか、さまざまな国の紛争もあったりとか、非常にきな臭いというか、万が一のときには日本も大きな影響を受けることは避けられないことがありますので、そうならないように願いつつ、着実に会社としてはIT化、ITをすることによって、より日本としての生活環境、そして企業環境がより良くなるのであれば、そういったところに積極的に寄与できる会社を目指して、今後も邁進していきたいと思っています。

引き続き、投資家の皆様、そして株主の皆様方の期待に応えられるように、会社として頑張りたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

以上で、会社の第2四半期の決算説明会を終了させていただきます。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

